屋外温浴施設に関する基本構想

検討報告書（概要版）

別府市では、行政運営の総合的な指針として「別府市総合計画」・「べっぷ未来共創戦略」において、資源（ひと・温泉）を生かして「儲かる別府」に進化することを目指している。

その具体的な施策の一つである「東洋のブルーラグーン（仮称）」の第一歩として、今回の「屋外温浴施設に関する基本構想検討委員会」が設置された。

ブルーラグーンとは

「青い潟湖」を意味する「ブルーラグーン」は、アイスランド共和国の首都レイキャビクの南西約 40 ㎞に位置し、世界中から多くの観光客が訪れる広大な屋外温浴施設である。ブルーラグーンは、自然資源の活かし方、環境への配慮の工夫、新たな価値創造など参考となる要素が豊富な施設である。

- 見渡す限りの溶岩地帯の風景を生かした圧倒的なロケーション
- 地熱発電所の熱水を再利用した圧倒的なスケール感
- 自然エネルギーの活用や資源の再利用といった環境負荷の低さと持続可能性
- 老若男女が一堂に会してコミュニケーションを楽しめる溶岩地帯のオアシス的存在
- 入浴しながら楽しめるエステやレストランやバーが生み出す新たな滞在価値

アイスランド ブルーラグーン

別府市を取り巻く環境の分析

基本理念および事業コンセプトを導き出すために、委員会での議論を基に、別府温泉を取り巻く環境を内部環境である強み、弱み、外部環境である機会、脅威の視点で分析した。

別府は古（いにしえ）からの歴史の中で発展してきた多種多様な個性、豊かな入浴方法、及び多様な泉質と独自の温泉文化や、山側からの眺めや海側からの眺めなど景観面で他の地域にはない強みも有している。しかし、別府八湯としてこれらの魅力が市内に広く分散しているため観光客が周遊しにくい状況にあり、強みを十分生かし切れていない。

温泉資源保護の必要性や世界的な SDGs の取組への意識の高まりから、持続可能な温泉施設整備という観点も十分考慮しなければならない。また、別府では温泉の研究成果の蓄積も豊富であり、「コト消費」需要の高まりという機会を逃さず強みに変えていくことや、国内シェアが高まりつつある夫婦、カップルや家族旅行への対応や、文化の異なる外国人旅行者への対応等を考慮する必要がある。すなわち、多種多様な文化や自然の魅力等、数多くある別府の魅力を十分に表現しきれていない状況にあるといえる。

別府の『東洋のブルーラグーン（仮称）』は、どのような屋外温浴施設であるべきなのか？

高いポテンシャルを持つ別府の財産を十分に表現できる温浴施設とはどのようなイメージであるべきか？

「別府らしさ」

鶴見岳等の山々と別府湾に包み込まれた自然の大パノラマの魅力を来訪者が自然と一体となって感じられることであり、そして世界に誇る湯量、源泉数、多様な泉質、蒸し湯や砂湯、日常に根付いた温泉文化を掘り下げ、磨き上げ、温泉の魅力をより深く利用者に味わっていただくことである。

「時間的・空間的な広がり」

奈良・平安時代から始まり、蒸し湯や砂湯などの多様な入浴様式や、地獄めぐりや地獄蒸し等の様々な温泉文化を培ってきた別府が、持続可能性や多様性を許容する SDGs 等の新しい理念を取り込みながら、これからの高度情報化社会だからこそ求められる人と人との大切なコミュニケーションの場として、男女や家族連れ、外国人旅行者など、体や心の悩みも気にせず誰もが集うことができる新しい温泉文化を創造し続け、別府のみならず日本・世界の温泉文化を牽引する役割を果たすことである。

海と山の大パノラマ

別府八湯の多様な泉質

砂湯・むし湯等の多種多様な入浴方法

基本理念

別府らしさを基盤に、時間的・空間的な広がりを体現した世界オンリーワンの温泉施設

5 つの事業コンセプト

- 別府の自然を活かす ～自然との一体感醸成～
- 別府温泉の本物を活かす ～温故知新で魅力をより深くより広く伝える～
- 持続可能な施設整備 ～環境との共生～
- 新たな温泉コミュニケーションの創造 ～時代とともに進化する温泉文化～
- 別府温泉全体で稼ぐ ～地域経済活性化のための拠点づくり～

SDGs への取組

文化の異なる外国人旅行者への対応

夫婦、カップルや家族旅行への対応の遅れ

新しい価値観の提供

知的観光需要

別府温泉全体の情報発信機能

温泉の研究成果の蓄積

温泉資源保護

時間の流れ

奈良・平安
入浴文化の黎明
仏説温室洗浴衆僧経の伝来

鎌倉
鉄輪の蒸し湯
石風呂文化

江戸・明治
上総掘りの実用化
蒸し湯から全身浴へのシフト
石榴口（ざくろぐち）の蒸し湯

大正・昭和
露天風呂の普及
砂湯の登場
地獄めぐり観光化

現在
温泉資源保護の仕組み確立へ
別府版ブルーラグーンの提案
貸切風呂の普及

2030
SDGs 達成
～すべての人に対応する温泉提案～
入浴様式の新たな提案

2050
温泉と健康の関係の解明へ
入浴事故死ゼロへ

空間の広がり

世界	**世界の温泉文化への誘導** ・ブルーラグーンへのオマージュ
日本全国	**日本全国の温泉文化への誘導** ・多様な温泉・様式へのオマージュ （機能温泉浴の発祥・上州など）
別府市内各地	**別府市内の各温泉施設への誘導** ・ゲートウェイ的な PR 機能 （多様な泉質・様式紹介） ・温泉博物館的な啓発機能 （理科教材としての温泉）
別府温泉各施設	**温泉「聖地」としての別府** ・世界一、二の源泉数、湯量 ・圧倒的な源泉・様式の多様性 ・蒸し湯/一遍上人の上陸地 ・観光バス＆ガイド発祥

事業用地の可能性検討

各エリアについて、面積、法令に基づく制約、インフラ条件、現在の利用状況等環境条件を勘案し、適性について比較検討を行った。

海ゾーンの上人ヶ浜公園エリアで全ての比較検討条件に適合することが確認された。

山ゾーンの 2 か所はほぼ同等の条件となっており、海ゾーンに比して掘削等開発の制限が強いが、鍋山エリアについては周辺に源泉が多く、周辺の余剰湯量の活用可能性も残るものと考えられる。

選定された 4 か所の事業用地エリア

基図出典：国土地理院地図（電子国土 Web）
https://maps.gsi.go.jp/

構想の実現に向けて

本委員会では、屋外温浴施設に関する基本構想策定のため、別府温泉を取り巻く環境分析を行い、別府市で進める屋外温浴施設のあり方を議論してきた。

本事業では「別府らしさ」の本質をとらえ、「時間的・空間的な広がり」を踏まえた事業展開により、これまでに無いプレミアムな価値を創造し地域に普及させることで、別府温泉の総合力で温泉文化を牽引する「世界オンリーワンの温泉施設」を整備することを目指すべきである。

また、本基本構想検討報告書が本市の温泉、観光行政をはじめとする国際観光温泉文化都市としてのまちづくりに生かされることを希望する。併せて、先人から受け継がれ現在も生み出されている多様な温泉に関する知恵や文化を生かしながら、本事業が起点となり別府市全域をひとつの温泉リゾートとすることが望まれる。

別府市においては、本委員会における検討を通じて得られた様々な知見を活かすとともに、本基本構想検討報告書に示された基本理念、事業コンセプトを踏まえながら、民間のノウハウを活用し本事業を進めていくことを期待したい。

令和２年３月
屋外温浴施設に関する基本構想策定委員会